

歯学部 1 年生の様子

歯学科 1 年 中 澤 夏 希

「コロナ禍がなかったらどんな大学生活を送っていたらう。」

毎日のオンライン授業や部活の大会中止の知らせを受ける度にこう思います。私は、9月の下旬に「歯学部学生の様子」という題で寄稿の依頼をいただきました。何を書こうかと1年間を振り返るたびに浮かぶのは、新型コロナウイルスの影響を強く受けた、制限の多い生活ばかり。新潟大学に入学して約1年がたちますが、3年生以上の先輩方が思い出として話すキャンパスライフとは程遠い毎日です。しかし、私たちは自分の置かれた状況をしっかり受け入れ、一生懸命、そして明るく学生生活を送っています。

前期は五十嵐キャンパスでの対面授業は1つありませんでした。初めてのオンライン授業ではパソコン操作がうまくいかず、友人に助けもらったことは今では良い思い出です。毎週金曜日には旭町キャンパスへ早期臨床実習Ⅰと歯学スタディスキルの講義を受けに行っていました。グループで専門診療科の必要性について考察したり、レポートを書いたり歯科の専門的な内容にも触れる機会がありました。グループワークでは、画面越しに議論することの困難さも感じましたが、学ぶことや得るものが多く、良い経験をさせていただいたと実感しています。後期は週2日、英語の対面授業で五十嵐キャンパスに通っています。授業後に次のオンライン講義が始まる、と急いで帰る友人の姿は恒例になっています。

私は剣道部に所属していますが、部活動にも新

型コロナウイルスが影響を与えています。面をかぶる際にはマスクとマウスシールドを着用します。そのため、息苦しさは普段の倍以上。夏場の稽古はこまめに水分補給をして、熱中症にはとくに注意していました。また、互いの顔が近くなってしまい、つばぜり合いを積極的にしないよう留意しています。このように戸惑うことや慣れるのに時間がかかることはありますが、新ルールや新しい常識に対応しながら、普段の稽古に励んでいます。

1年生の今は、講義のほとんどは教養科目、部活動でもまだ責任を負う立場ではありません。2年生からは、特に学習面では大変なことやつらいことが待ち受けているでしょう。今とは比較にならないほどの量や難易度の学習内容にくじけそうになることもあると思います。そんな時、同期の仲間や先輩の大切さを実感しながら一つ一つ乗り越えていきたいです。私たちの生活は約2年前から一変してしまいましたが、仲間との談笑や剣道の楽しさ、テストの大変さなど、変わらないものも多いな、と振り返ってみて感じます。いつか、新型コロナウイルスなしで語ることのできる1年が訪れるのを楽しみにしていますし、切実に願っています。それまで自分にできることに全力で取り組み、未来の医療者としての自覚ある行動を心がけていきたいと思っています。

最後まで読んでいただき、ありがとうございました。

歯学部 2 年生の様子

歯学科 2 年 山 崎 葵 偉

ふう〜っと、歯学科の大きな山場の1つでもあるとされる2年前期の定期試験も全て終え、ほっと安堵しています。そのためこの執筆では心の声が漏れてしまうこともあるかもしれません。気が付けば歯学部に入學してから早くも1年半が経ちました（心の声：入学式は行われていないけれども）。スマートフォンにある写真を見返すと、1年前の初々しい私と友だちたちの様子が残っており、卒業まであと4年ほどあるにも関わらず懐かしく感じています。試験期間中は毎日のように工事中の図書館に足を運び、私にとって図書館はドラゴンボールでいう「精神と時の部屋」状態でした。私が悟空だとすると、ベジータのような存在が何人もいて、切磋琢磨できる関係の友だちがいたからこそ、ここまで来ることができていると常々に感じる毎日です。また、私は歯学部バドミントン部に所属していますが、先輩方が試験のことについて教えてくださったり、アドバイスをしてくださったりとあらゆる科目で助けられました（心の声：持つべきものは先輩だ!）。そしてコロナ禍における大学生活ですが、もう慣れました。新型コロナウイルスにもう文句はありません。

ところで、後期の授業では前期の授業と違い、ただ覚えるといった内容ではなく、実習を行ってレポートを作ったり、あるいは発表したりといった授業が多いです。しかし、どの授業においても立派な歯科医師になるという目的には繋がっていると感じます。生体理工学で初めてアルジネート印象材を扱ったときは全く上手く出来ず、歯科医師としての先行きが不安になりましたが、修業あるのみだと思っています。また、後期はインシュタインも驚くほど、とにかく時間の流れが早いものです。ぼーっと毎日を過ごしていると、すぐに来年を迎えてしまいそうです。そのため今後は、自分が良い歯科医師になるためにはどうした

らいいのか、ということを考える良い機会だと思っています。また、2年になって専門科目を学び始め、歯科に関することももちろん学びますが、基礎的な科目が主です。しかし、この基礎的なことが後々CBTや国家試験においてとても重要になるため、決して侮れません。蓄えるべき知識は膨大で、今の時点できついと感じる時もありますが、筋トレのように負荷がかかっているからこそ、成長していけるのだと強く思います。

最後に、コロナ禍という環境下であることは変わっていませんが、このような環境下の中でも学ぶことができ、また毎日を楽しみさせていることは、私を支えてくれるたくさんの人がいるからこそである、ということをお忘れはいけません。よってこの歯学部ニュースを誓約書として、感謝を忘れないということをお誓いします。そしていつの日か、私がこの歯学部ニュースを見返した時に、自信を持って歯科治療を提供できる歯科医師となれているように、日々を精進していきたいと思えます。



講堂にて 友人と

歯学部 3 年生の様子

歯学科 3 年 赤 峰 沙 夜

3 年生も残り 4 か月、これが掲載される頃には 4 年生の準備をしていることだと思う。

私は浪人して入学したため、同級生が就職や大学院への進学など新しいステージに向けて準備している様子をよく耳にするようになり、刺激をもらっている。

基礎系の科目が中心だった 2 年生から一転、3 年生からは専門科目も多くなり実習も増えた。前期は週二回の人体解剖学実習で実際にご献体を解剖させていただき、早期臨床実習Ⅱでは外来見学や臨床の場で働く先生方のお話を聞くという機会をいただいた。9 月のテスト期間が終わり、後期からは歯冠修復学実習（クラブリ実習）、歯形彫刻実習（カービング実習）、病理学総論実習などを行っている。また、11 月後半からは保存修復学実習が始まった。今まで見たことはあっても触ったことがなかった器具を使用して模型の歯を削ったり、様々な材料を用いて歯の型を取ったりと、一気に歯学部らしくなった。先輩方には及ばないとはいえ、時間が足りず、目の前にある課題を終わらせることに必死な毎日を送っている。小学生のころから宿題や課題は溜めずに早めにやってきた方だが、次から次へと出される課題は溜まる一方で、何かを忘れていないのではないかと不安になって友人と確かめ合うのが当たり前になった。ただ、キーボードの予測変換が歯科関連に置き換わってきているので 1, 2 年生の頃よりはレポートが多少書きやすい。

後期の実習の中でも特に、限られた時間の中でタスクをこなさなければならないクラブリ実習は想像以上に大変で、実習が終わった 18 時の自分は朝よりも一回り縮んでいると思う。今ちょうど折り返し地点まで来たが、相変わらず火曜日の朝は気合を入れないと布団から出られない。特に雨・

雪と強風で傘がなんの役にも立たない日は、地元の寒くても透き通った快晴が恋しくて帰りたくなる。これをこなしてきた先輩方は本当にすごいなとつくづく思う。クラブリ実習やカービング実習では、5 年生の先輩方にたくさん助けていただいている。私も 2 年後に先輩方のように自信をもって相手に説明できるように、また臨床実習で適切に動けるように、今実習で行っている一つ一つの操作の意味を理解し、失敗したらなぜ失敗したのか原因をよく考えながら取り組みたい。

授業以外の部活について、コロナ禍で大会は中止になってしまったが練習は行うことができている。私は 10 月からバスケット部の部長を務めさせていただいており人数や時間を見ながらメニューを考える難しさを感じているが、先輩や副部長、同期をはじめとした部員にたくさん助けてもらっている。部長の期間が終わるまで役割を楽しく全うしたい。

最後に、学年が上がるにつれてもっと忙しくなるだろうが、自分にとって何が重要なのかを見誤らないようにしたい。また、全力でサポートしてくれる家族や周りの人々への感謝を忘れずに今後も学生生活を無駄のないように過ごしたいと思う。



バスケット部の同期と

4年生の実習風景

歯学科4年 柳 舘 快 利

歯学部学生の様子というテーマで寄稿の機会を頂きありがとうございました。また、この機会に歯学部ニュースを改めて読むことができ、文章の多くがコロナ禍の話題で始まることに気が付きました。確かに、様々なメディアを見ても、何処かへ移動するにしても感染拡大について考えないことなどありません。編入時を思い返すと、リモート授業が主体になるとは想像も出来ませんでしたし、日常的にマスクを付け、フェイスシールドを装着して実習をすることも考えていませんでした。そこから、慣れないなと思いながら1年・2年と経過し、ついには新しい生活様式も習慣化しつつあります。そして最近、感染者数の激減に伴い一部を除いて対面授業になりました。

さて、対面授業に戻りつつありますが4年生は実習等が多いため元々ほぼ対面形式であり、特に後期に入ってから実習漬けの毎日を送っています。具体的には週4日で実習が組み込まれ、その他にもグループ学習などを行っております。今回は学生の様子ということで、1週間を簡単に振り返ってみました。

まず、月曜日には欠損補綴学の実習にてブリッジの支台歯形成とTEKを作製します。その際、脳内ではこの支台歯の平行性は大丈夫か、遠心舌側部の形成また足りなかったなど自問自答を繰り返し、なんとか先生のチェックを頂き、一旦喜びます。その後TEKのマージンが壊れたり、修正後に咬合面が高くなったりして落胆します。そして、咬合調整や形態修正に全集中し気付けば実習が残り30分、ラストスパートで何とか終わることが出来るか出来ないかでまた一喜一憂します。

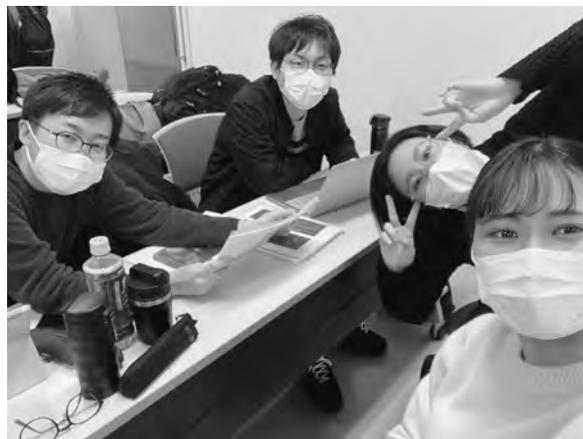
水曜日には歯周病実習でwalking probingやSRPを経験しています。脳内では25g圧はこんな軽いのか、SRPで模型歯肉スタボロになって

しまった、スケーラーに余計な力が入り指が疲れてうまく動かせないなど考えつつ、感覚を掴みながら学んでおります。

その他にも、木曜日には歯内療法学実習にて歯髓腔の狭さを思い知り、金曜日には矯正実習にて思い通りにワイヤーを曲げられないもどかしさや歯の移動の難しさを感じました。

以上実習について、少し可笑しく書きましたが、実習中は真剣そのものでクラス全員が全力で取り組んでいます。実習は楽しくもありますが、頭で思い描いていることを実現するのは難しく、歯痒いと感じることが多いです。また、座学で理解したと思っていても実際に行ってみると治療の流れが身につけていなかったことがよくわかります。実習を通して、上手いかない感覚に負けず技術を身につけ、座学も補完できるように努力を続けております。

最後に、この学年は人数が少なく何かと話題になることが多いとよく聞きます。人数が少ない分、先生方との距離が近いと考え、このメリットを存分に活かしながら人間味溢れるクラスの中で切磋琢磨していきたいと思っております。



編入生の人たち

臨床実習で感じたこと

歯学科5年 高橋 侑里

時が過ぎるのは早いもので、私たち53期生は5年生となりました。歯が何本あるかすら正確に把握していなかった歯学部入学時の私は、緑衣を来て病院内を歩いている今の姿など全く想像もできませんでした。

1～4年生もあっという間に過ぎましたが、5年生は格別時間の流れが早く感じました。ポリクリや実習と並行してCBTを乗り越え、開放感に満ち溢れた夏休みを過ごしたのも束の間、OSCE受験、当院式、を経て臨床実習が始まりました。

10月の引き継ぎ期間は、ただただ先輩の背中が頼もしく大きく見え、眩しく感じました。自分たちが来年の今頃、こんなに大きく成長できているのか、と疑問に思うほどでした。引き継ぎ終了時は、先輩がいなくなり今後自分1人で治療を行わなければいけない不安で押しつぶされそうで、6年生にずっといて欲しい、としか思えませんでした。

6年生がいなくなった11月は全てが発見の連続で、毎日新しい技術や知識を目の当たりにしました。模型でやっていたこと、教科書で習ったこととは違うことが求められる場面も多々ありました。今まで実習を行っていたとはいえ、実習では模型で行うか気心知れた同期と相互で治療を行うかであったため、実際の患者さん口の中を生で見るのはほぼ初めてでした。自分ではできると思っていたことも、実際患者さんを目の前にすると、どうすればいいかわからなくなり、結局なにでもできず、自分の不甲斐なさ、歯痒さを痛感しました。しかし、このような右も左も分からない状態でも、臨床現場では1人の医療従事者として扱われます。患者さんの治療を行う際、わからない、できないということは許されません。臨床実習が始まって1ヶ月が経ちましたが、今だに求められることに対して十分に処置が行えず、患者さんをお待たせしてしまったり先生に迷惑をかけたりして

しまうことがほとんどです。しかし、そんな時も患者さんは嫌な顔一つせず優しく協力してくださり、先生は熱心に指導して下さいます。なんでこんなに患者さんや先生は優しいんだろう、と常に思い、感謝でいっぱいになります。そんな患者さんや先生のことを思うと、この患者さんのためになら頑張りたい、先生の素晴らしい指導を吸収したい、と思います。与えられた環境やチャンスを最大限活かし、この一年で沢山の経験を積むことで成長していきたいです。

また、学年が上がるごとに、同期のありがたみを痛感します。低学年の頃から、先生たちが「学年の仲がいいほうが臨床実習を乗り越えるのいい」と仰っていたのも最近は特に頷けます。何気ない技工室での会話で癒されたり、自分の症例の参考になったりして、最近は技工室で同期と過ごす時間にとっても救われています。これから先、1人では絶対に上手くいかないことも、仲間のアドバイスやサポートはもちろんのこと、励まし合うことで乗り越えることができると思います。学生生活もあと残り1年半、長いようであっという間に過ぎるとは思いますが、53期のみんなで力を合わせ、臨床実習を乗り越えていきたいです。そして、来年臨床実習を振り返った時、一年間精一杯取り組めたと自信を持って言えるように行動していきたいです。



当院式で 同期との一枚
写真撮影時のみマスクを外しました

歯学部 1 年生の様子

口腔生命福祉学科 1 年 川 上 紗 樹

早いもので、私たちが入学してから、8か月が経とうとしています。新型コロナウイルスの感染拡大が1年たっても続いていて、入学してからはオンライン授業を中心とした授業を受けています。そのため、なかなか同じ学部生はもちろん、他学部生との交流もできない環境で、私は、友達ができるのかとても不安に思っていました。大学生になって初めてのことばかりで、履修の仕方や課題の提出の仕方など分からないこともたくさんありました。

おおよその授業が家で受けることになったので、対面での授業の方が貴重な時間となりました。前期には早期臨床実習とスタディスキルズの授業があり、これらを対面で行い、私たちが旭町キャンパスに通う機会を先生方が作ってくださいました。そのおかげで、同じ学部の人たちと話す機会が増えました。休憩時間や学校の行き帰りの時間などで会話が増え、自然と名前や顔を覚えて、ようやく交流できました。早期臨床実習は、実際に病院に行ってみたり、話を聞いたりすることはできませんでしたが、しかし、スライドを用いて、病院内の様子を分かりやすくまとめて伝えていただいたので、自分の中でおおよその想像をしながら授業を受けることができました。さらに、非対面ではありましたが、グループワークもあ

り、自分が調べてきたことやほかの人の意見を共有すると、一人では思いつかなかったことがあってグループワークの楽しさを感じました。

また、なかなか友達ができにくい環境ということとを考慮して口腔生命福祉学科の新入生交流会を先生方から企画していただきました。そこに参加して、同じ学科の友達のことを知るきっかけになりました。グループになることによって今まで話したことがなかった人と話せました。自己紹介をしてお互いの出身地の魅力や趣味、好きな芸能人の話で盛り上がり、とても楽しい時間となりました。また、新入生交流会を通して学科の先生とも交流できて貴重な機会でした。

コロナ禍での、学校生活はできないことに目が行きがちですが、今の状況だからこそできることや今しか感じられない気持ちを大切に、大学で学んでいきたいとこの1年で強く思いました。1年生は、一般教養を学んでいますが、2年生になったら歯科の専門的な授業が増えると思うので、意欲的に学びを深めていきたいなと思います。また、今後は実習もできるようになると思うので、歯学部の口腔生命福祉学科の学生として入学して、同じ学部生としての出会いを大切に、これからの大学生活を送りたいと思います。

歯学部 2 年生の様子

口腔生命福祉学科 2 年 須藤 悠大

初めまして、口腔生命福祉学科 2 年の須藤悠大です。「歯学部学生の様子」というタイトルのものと、口腔生命福祉学科での生活を中心に日々の学生生活について書かせていただきます。

昨年度は新型コロナウイルスの影響により授業の形態が非対面であり、五十嵐キャンパスで授業を受けることができませんでした。五十嵐キャンパスに通う、他学部の友人に出会うことを夢見ていましたが、夢叶わず充実した大学生活が送れたとは言えませんでした。オンラインであったためかあっという間に大学一年生は終了していました。慣れない環境で戸惑いながら生活していた記憶があります。

今年度は旭町キャンパスに移り、初めて対面授業が行われました。女子 19 人男子 1 人ということで不安いっぱいでしたが持ち前の美貌とかわいらしさでクラスを牛耳ることができました。講義は昨年度の教養科目より専門性が高まり、勉強のしがいがあるものでした。

講義の他に PBL という学習形態の授業が始まりました。PBL とは与えられたシナリオの中から問題点を見つけ出し、その問題を手がかりに学習を進めていく方法です。様々な症例の問題について情報を収集し、グループで討論することで、疑問・問題を解決します。この学習を通して問題発見から解決のプロセスや正しいリソースからの情報収集の手段、意義のあるグループ討議の方法を学ぶことができました。加えて、他のグループメンバーの学習態度や方法を知ることができ、自身の学習態度を見直すきっかけとなりました。

後期には実習も始まり、本格的に歯科衛生士の業務を意識するようになりました。相互実習では、講義や PBL で学習したことを対人で実践することができます。術者だけでなく、患者や補助者の役割を担うこともあるため、様々な観点から学習することができ、大変身になります。スケーリング実習では顎模型を使用して歯石除去の実習を行っています。模型ではありますが、人間の口であるということ意識して行うことが求められます。

最後に部活動について書きます。私は歯学部バレーボール部に所属しています。部活は少人数ですが、アットホームな雰囲気でもとても楽しく、居心地が良いです。先輩には部活動のことだけでなく、学校生活や私生活でもお世話になっており、大変恵まれた環境であると感じます。

このように昨年度とは異なる学生生活を送ることができ、充実しています。



6 年生部活動引退前最後の練習
写真撮影時のみマスクを外しました

歯学部 3 年生の様子

口腔生命福祉学科 3 年 佐 伯 唯 衣

歯学部学生の様子というテーマということで、僭越ながら私の学生生活について話させていただきます。3年に進級してからは歯科に加え、福祉の授業やPBLも加わり、口腔生命福祉学科らしくなってきたなと感じながら、毎日慌ただしく生活を送っています。昨年度はZoomでのオンライン授業がほとんどでしたが病院での臨床実習も無事スタートし、学内の対面授業に切り替わりました。大部分を家で過ごす生活から、大学へ通い友達と他愛のない話をして過ごせる時間がとても楽しく、新鮮に感じています。

さて、後期からは病院実習が始まり、また新しい生活がスタートしました。10月から始まった病院実習では、これまで相互実習などで学んできた内容を患者さんに実践していきます。基本的に3年生の間は4年生に付き添って、見学することが多いのですが、実際に治療の補助や準備を頼まれる機会もあります。これまで習得してきたことを活かす貴重な場です。実習が始まって2か月が過ぎましたが、実習のなかで自分の知識不足や技術不足を痛感する場面も多く、自分自身の課題がたくさんみえてきました。授業や実習で学んだ知識でも臨床の場に出ると忘れていたり身についていないことに気づかされます。機敏に対応する4年生の姿をみていると、わたしは今の4年生のように一人前になれるのだろうかと不安になることもあります。

けれど、そんなときに支えになっているのは、同級生の存在です。一緒に悩みを相談し、励まし合うことでまた次も頑張ろうと前向きな気持ちに

繋がっています。また、病院でも4年生や歯科衛生士さんが頻りに声をかけてくださり、分からないことがでてきても優しく教えてくださるのでとても心強いです。その度に恵まれた環境にすることを実感させられます。初めは大きくあった不安も、回数を重ねるごとに自信につながっていくのを感じています。また、患者さんによって、症状は様々でこれまで座学では学べなかった症例を目の当たりにすることもあり、毎日発見や学びがあつてとても勉強になります。

また、新型コロナウイルスも以前より緩和してきたことにより、2年時にはいくことのできなかつた学外での実習もできるようになってきました。高校の歯科健診、最近では保健センターの1歳誕生歯科健診にも参加させていただき、現役の歯科衛生士さんの歯科保健指導を実際に見学させていただく、とても貴重な時間を過ごさせていただきました。

こうした実習を通して、さまざまなお話を聞かせていただく中で、自分の進路について方向性が定まってきた気がします。来年にはよいよ最終学年となり、友達との会話の中でもそれぞれの進路について話し合う機会が増えてきました。こうした話をしていると、同じ学部でもみんな違った志の中で実習に取り組んでいることに気づかされます。4年になれば、病院での臨床実習に加え、福祉実習、国家試験勉強などさらに忙しくなっていくと思います。残り1年と少しの学生生活ですが、学べることをたくさん吸収して、後悔のないように残りの大学生活を充実したものにしていきたいです。